衝動性に対する潜在的自己概念と潜在的感情の検討

○小橋眞理子¹・井田政則²

(1 立正大学大学院心理学研究科・2 立正大学)

キーワード: 衝動性, IAT, JABIS

Study of impulsivity on implicit self-concept and emotion

Mariko KOBASHI¹ and Masanori IDA²(¹Graduate School of Psychology, Risscho University, ² Risscho University)

Key Words: impulsivity, IAT, JABIS

問題の背景と目的

衝動性は社会的問題行動を引き起こす行動傾向として広く社会に認知されているが、一般の人々も持つ特性としても捉えられており、様々な尺度が開発されている。一方、潜在的連合テスト (Implicit Association Test, 以下 IAT) は、意図的ではない自動的に活性化される潜在的態度の測定を目的とする課題である。小橋・井田 (2017) では、衝動性に対する潜在的自己概念を測定する衝動的-自制的 IAT (以下、衝動性自己概念 IAT) を作成し、潜在的自己概念と衝動性との連合の強さについて測定し、顕在的衝動性との関連を検討した。その結果、潜在的衝動性自己概念は注意衝動性と関連したが、衝動的行動傾向を示す運動衝動性とは関連しなかった。

そこで本研究では、衝動的行動には感情 (快・不快) が関係すると考え、衝動性に対する潜在的感情を測定する衝動的-自制的 IAT (以下、衝動性感情 IAT) を作成し、潜在的感情と衝動性との連合の強さを測定した。そのうえで潜在的衝動性自己概念と潜在的衝動性感情との関連性を検討し、さらにこの 2 つの潜在的指標と質問紙で測定される顕在的衝動性との関連性を検討することを目的とした。顕在的衝動性の測定には、日本語短縮版 Barratt Impulsiveness Scale-11 (以下, JABIS ; Kobashi & Ida, 2016) を用い、さらに衝動性と関連することが予測される BIS/BAS 尺度日本語版 (高橋他, 2007) を併せて用いた。

方法

・参加者: 学部生および大学院生 43 名 (男性 13 名・女性 30 名, 平均年齢 21.49 歳, $SD=1.74$)

・調査期間: 2016 年 2 月～7 月

・質問紙調査: 1) JABIS: 注意衝動性 (注意の欠如), 非計画的衝動性 (計画性の欠如), 運動衝動性 (衝動的行動傾向) の 3 因子 (6 件法)。2) BIS/BAS 尺度日本語版: BAS 因子のうち報酬反応性 (報酬の存在や予期に対するポジティブな反応), 刺激探求 (新奇な刺激や報酬刺激に対して思い付きで接近しやすい傾向) の 2 因子を使用 (4 件法)。

・IAT: 衝動性自己概念 IAT および衝動性感情 IAT では、ともに衝動的-自制的に関する刺激語として、衝動的=即断・無計画・直感・手当たり次第・やみくも, 自制的=熟慮・計画性・慎重・入念・じっくり, を用いた (小橋・井田, 2017)。

連合する概念の対語は、衝動性自己概念 IAT では、自己=わたくし・我々・私・自身・自分, 他者=ともだち・他人・知り合い・知人・友人, を用い、衝動性感情 IAT では、快=良い・楽しい・すてきな・心地よい・魅力的な, 不快=悪い・不愉快な・愚かな・いやな・退屈な, を用いた。

・手続き: 参加者は質問紙に回答後, IAT 課題 (2 種類の IAT の実施順はカウンターバランスをとった) を行った。

結果と考察

IAT 指標には D スコアを使用した。D スコアは、 $-2 \sim +2$ の値をとり、衝動性自己概念 IAT・衝動性感情 IAT それぞれ、この値が正で絶対値が大きいほど、自分は衝動的または衝動的が快、負で絶対値が大きいほど、自分は自制的または自制的が快であることを表わす。両 D スコアの基本統計量を Table1 に示した。その結果、潜在的衝動性自己概念は自制的、潜在的衝動性感情は自制的が快という傾向であった。また、両 IAT と D スコアの相関係数を算出した結果、比較的強い正相関 ($r=.461, p<.01$) であった。これらのことから、人は潜在的に自制的傾向にあり自制的を快と感じており、その両者は関連することが示された。

Table1 Dスコア記述統計

	平均値	SD	最小値	最大値
衝動性自己概念IAT	-.403	.396	-1.203	.458
衝動性感情IAT	-.786	.430	-1.589	.325

さらに両 IAT の D スコアと、顕在的尺度の各下位尺度因子との相関分析を行った (Table2)。その結果、衝動性自己概念 IAT は、注意衝動性・刺激探求との間に弱い正相関が、衝動性感情 IAT は、注意衝動性・運動衝動性・刺激探求との間に弱い正相関がみられた。このことから、注意の欠如や新奇刺激への接近には潜在的衝動性自己概念・感情の双方が関連するものの、衝動的行動傾向には潜在的衝動性感情のみが関連することが示された。したがって衝動的行動には潜在的な快感情が関与することが示唆された。

Table2 Dスコアと他尺度との相関

	JABIS			BIS/BAS	
	注意衝動性	非計画的衝動性	運動衝動性	報酬反応性	刺激探求
衝動性自己概念IAT	.305 *	.031	.192	.252	.309 *
衝動性感情IAT	.369 *	-.026	.351 *	.179	.302 *

* $p<.05$